

伊能忠敬の全国測量と阿井通過の巻

伊能忠敬は、寛政十二年（一八〇〇）より幕府の命を受け全国を北海道から南は沖繩にいたるまで、十次にわたり歩いて測量した。十六年を要し、一八一六年に終了するまで十六年を要し、二年後の文政元年（一八一八）に七十四才で死去している。その後、伊能忠敬の弟子達が協力完成して幕府に献上したもので「大日本沿海輿地全図」又は「実測輿地全図」・「伊能図」とも言っている。

この測量で最もねらいとするのは、単なる長さ・広さ・存在物の観測でなく、学問上の課題である日本は地球上のどの位置にあり、どんな形でどれだけ広がっているかを正確にする事であり、全国に天体観測地点一二〇三、そして天体観測回数約十萬回と言われる。正確さについては近代精密機器によるものに比して殆ど差異が無かったといわれている。

阿井での測量の足跡をたどってみよう。【伊能忠敬測量日記】より
文化十年（一八一三）十一月忠敬（六十九才）北九州残部を終わり、津和野から六日市を経て広島県に入り西部を北上する。

○二十一日、朝・晴 広島県最後の測量を終え、和南原の庄屋唯三郎家にて宿泊。その夜、大庄屋永川原兵、郡方下役山本伊三郎名札（名刺）をもって挨拶に来る。仁多郡上阿井村庄屋徳平、付添賄方庄屋六兵衛来る。松江藩領御入領につき、地元役人として歓迎の挨拶である。

○二十二日、晴曇、六ツ時（朝六時頃）和南原出立。雲州仁多郡松

江領上阿井に入り、木地谷川土橋二間、字奥木地谷、木地谷川四度渡り、字鉄山所人家十五軒（この様な調査と記載で北へと進んでいる。以下少々省略して記入）字延谷、阿井谷川土橋九間右谷間を四・五町行き昼休み（昼食）、鉄師の大家可部屋勘左衛門（第六代苗清の代）字一里松そして谷口↓米原↓上阿井町、（制札場あり）↓福原↓阿井川向うに古城跡鳥見山（伊達采女（いなめ）居城）字平↓小迫↓横見、左当村鎮守大森大明神、阿井川板橋十五間（大森橋）、下阿井荒堀で打止め。それより七ツ時（午後四時頃）上阿井町の帰宿、宿は可部屋勝太郎（町櫻井）。その夜、星測量、場所は上阿井運動広場の西側の小高い台地で台畑という所であった。ここで北極星の位置や高さなど測定し地球上での台畑の位置を出している。

その夜、郡方元メ岡惣助、郷中諸役岡所右衛門、賄方舟越金蔵、粟田平七、神田助右衛門や上阿井村庄屋徳平、上阿井町目代丹兵衛、同組頭作兵衛が挨拶に来ている。松江藩主より国産品を恩惣助が忠敬に贈っている。

○二十三日、晴天、六ツ時上阿井

出立、昨日の打止めだった下阿井荒堀よりはじめ、字井戸、右に禅宗大平山長栄寺、字山根↓奥湯谷川土橋九間、左に鎮守八幡宮↓矢谷峠↓駕籠立場（お茶屋成り）、右谷下は見渡し、七町あまり尾白村あり（宇根路を通り測量している）そして堅田村釜ヶ谷↓昼休みは忠右衛門宅、鞍掛村↓原田村↓三沢町、宿泊は三沢町塗屋祐左衛門と酒屋半十郎の二軒、この夜、星測量……。この様にして、三沢を終え木次町八日市へ、そして今市に出て別隊と合併し、平田↓宍道↓松江↓安来へと東に進んでいる。

島根の測量は、文化三年・文化八年に続いて三回目であった。